

-平成17年度・平成18年度発掘調査報告-

埋藏文化財調査報告書

平成17年度

- 西広畑遺跡(第2次)
- 山崎千束遺跡

平成18年度

- 八千種余田大谷遺跡
- 加治谷垣ノ内遺跡
- 下々通遺跡
- 南田原条里遺跡(第7次)
- 南田原長目遺跡(第3次・第4次)

2009年3月

兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会

-平成17年度・平成18年度発掘調査報告-

埋蔵文化財調査報告書

平成17年度

- 西広畑遺跡(第2次)
- 山崎千束遺跡

平成18年度

- 八千種余田大谷遺跡
- 加治谷垣ノ内遺跡
- 下々通遺跡
- 南田原条里遺跡(第7次)
- 南田原長目遺跡(第3次・第4次)

2009年3月

兵庫県神崎郡
福崎町教育委員会

あ い さ つ

埋蔵文化財は地域に埋もれた歴史を伝えてくれる大切な資料の一つです。福崎町の埋蔵文化財調査は、小規模開発等に伴う試掘・確認調査を中心に行われています。開発に伴い実施した結果、遺跡の有無や遺跡の性格などが少なからず知ることができるようになりました。小さな事柄からその地域の始まりや祖先の足跡を垣間見ることが出来ます。

それぞれの成果をまとめることによって地域の大切な資料として認識いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査においては、関係各位のご協力を得ることができ、厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

福崎町教育委員会
福崎町教育長 岡本 裕

例 言

1. 本書は、平成17年度・平成18年度に行った試掘確認調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は、各個人・団体の依頼を受け福崎町教育委員会が主体となり実施した。
3. 経費は国庫補助金を得て実施した。
4. 各年度の調査体制は以下の通りである。

平成17年度	平成18年度	平成20年度
調査事務局	調査事務局	整理事務局
教育長 中野 正義	教育長 岡本 裕	教育長 岡本 裕
教育長 岡本 裕		
社会教育課長 山口 省五	社会教育課長 北山 正和	社会教育課長 高井 紳一
課長補佐 木村 巧	社会教育課副課長 山下 健介	社会教育課副課長 山下 健介
主査 出田 直	社会教育係長 出田 直	社会教育係長 出田 直

調査担当

調査員 出田 直

整理作業は、出田 直（福崎町教育委員会）が担当し、梶智美の補助を得た。

5. 挿図中に使用している方位は基本的に磁北を示している。
6. 本書の執筆・編集は出田が行った。
7. 遺構の実測、写真は出田が行い、遺物の実測・製図、遺構の製図等は梶の協力を得た。
8. 現地調査作業には下記の方の協力を得た。（順不同・敬称略）
西井正実、城井直孝、西井康雄、山田正英、長谷川義信、生田建設株式会社
9. 整理作業に関して下記の方の協力を得た。（順不同・敬称略）
梶智美、神崎郡歴史民俗資料館、福崎町産業課

目 次

あいさつ・例言	I
目次・図版目次	II
写真目次	III
平成17年度埋蔵文化財調査一覧	1
平成18年度埋蔵文化財調査一覧	1
平成17年度	
1 南大貫開発予定地	3
2 馬田開発予定地	6
3 南田原中島開発予定地	9
4 八千種小学校体育館建設予定地	12

5 山崎地区ほ場整備予定地	15
6 西広畑遺跡(第2次)	27
平成18年度	
7 西治地区内工業団地建設予定地	30
8 八千種余田大谷遺跡	31
9 加治谷垣ノ内遺跡	34
10 下々通遺跡	37
11 南田原条里遺跡(第7次)	39
12 南田原長目遺跡(第3次)	41
13 南田原長目遺跡(第4次)	43

図 版 目 次

図1 福崎町位置図	2
図2 調査場所位置図	2
平成17年度	
1 南大貫開発予定地	
図3 調査場所位置図	3
図4 調査区配置図	3
図5 南大貫地区土層図	5
2 馬田開発予定地	
図6 調査場所位置図	6
図7 調査区配置図	6
図8 馬田地区土層図	8
3 南田原中島開発予定地	
図9 調査場所位置図	9
図10 調査区配置図	9
図11 南田原中島地区土層図	11
4 八千種小学校体育館建設予定地	
図12 調査場所位置図	12
図13 調査区配置図	12
図14 八千種小学校体育館建設 予定地土層図	14
5 山崎地区ほ場整備予定地	
図15 調査場所位置図	15
図16 調査区配置図	15
図17 山崎地区調査区土層図	20
図18 山崎地区調査区土層図	21
図19 調査区17平面図・土層図	22
図20 出土遺物	23

図21 出土遺物	24
山崎地区ほ場整備予定地調査区一覧	25
出土遺物観察表	26
6 西広畑遺跡(第2次)	
図22 調査場所位置図	27
図23 調査区配置図	27
図24 西広畑遺跡土層図・平面図	29
平成18年度	
7 西治地区内工業団地建設予定地	
図25 調査場所位置図	30
8 八千種余田大谷遺跡	
図26 調査場所位置図	31
図27 調査区配置図	31
図28 遺構平面図・土層図	32
図29 出土遺物	33
出土遺物観察表	33
9 加治谷垣ノ内遺跡	
図30 調査場所位置図	34
図31 調査区配置図	34
図32 調査区土層図	35
図33 出土遺物	36
出土遺物観察表	36
10 下々通遺跡	
図34 調査場所位置図	37
図35 調査区配置図	37
図36 調査区土層図	38
11 南田原条里遺跡(第7次)	

図37	調査場所位置図	39
図38	調査区配置図	39
図39	調査区土層図	39
図40	出土遺物	40
	出土遺物観察表	40
	12南田原長目遺跡 (第3次)	
図41	調査場所位置図	41

図42	調査区配置図	41
図43	調査区土層図	42
	13南田原長目遺跡 (第4次)	
図44	調査場所位置図	43
図45	調査区配置図	43
図46	調査区土層図	44

写真目次

	7 西治地区内工業団地建設予定地	
写真1	調査状況	30
写真2	調査区の状況	30
	10下々通遺跡	
写真3	調査前の状況	38
写真4	調査風景	38
写真5	調査区1	38
	13南田原長目遺跡 (第4次)	
写真6	調査地の状況	44
写真7	調査風景	44
写真8	調査区1	44

図版	八千種余田大谷遺跡現地説明会風景	
図版1	平成17年度	
	1 南大貫開発予定地	
図版2	2 馬田開発予定地	
図版3	3 南田原中島開発予定地	
図版4	4 八千種小学校体育館建設予定地	
図版5~9	5 山崎地区ほ場整備予定地 (山崎千束遺跡)	
図版10	6 西広畑遺跡	
図版11	平成18年度	
	8 八千種余田大谷遺跡	
図版12	9 加治谷垣ノ内遺跡	
	11 南田原条里遺跡 (第7次)	
図版13	11 南田原条里遺跡 (第7次)	
	12 南田原長目遺跡 (第3次)	
図版14	山崎地区(山崎千束遺跡出土遺物)	
図版15	山崎地区(山崎千束遺跡出土遺物)	
	八千種余田大谷遺跡出土遺物	
	加治谷垣ノ内遺跡出土遺物	
図版16	加治谷垣ノ内遺跡出土遺物	
	南田原条里遺跡出土遺物	

平成17年度 埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	原因者	要因	調査期間	取扱	時代	遺構	遺物	調査面積	地図番号
南大貫地区	福岡町大貫 字前田	阪神住建	その他の開発	平成17年11月 16日	工事	—	なし	なし	6箇所 24㎡	1
馬田地区	福岡町馬田 字竹ノ元	個人	集合住宅建設	平成18年1月 18日	工事	—	なし	なし	5箇所 20㎡	2
南田原中島 地区	福岡町南田 原字南東野	赤鹿建設	分譲住宅建設	平成17年12月 19日 平成18年1月 25日～27日	工事	—	なし	なし	5箇所 20㎡	3
八千種余田 地区	福岡町八千 種字大谷	福岡町	八千種小学校 体育館建設	平成18年3月 23日	工事	奈良	溝状遺構	なし	6箇所 24㎡	4
山崎地区	福岡町山崎 字岩ハナ	山崎区	ほ場整備	平成17年4月 22日～26日、 平成17年5月 31日、平成17 年6月2日	工事	中世	築石遺構	土師器・ 須恵器	30箇所 120㎡	5

遺跡名	所在地	原因者	要因	調査期間	取扱	時代	遺構	遺物	調査面積	地図番号
西広畑遺跡	福岡町西田 原	個人	個人住宅建設	平成17年12月 25日	工事	弥生	なし	なし	2箇所 10㎡	6

平成18年度 埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	原因者	要因	調査期間	取扱	時代	遺構	遺物	調査面積	地図番号
西治地区	福岡町西治 字拝尾	大伸化学	工業団地開発	平成18年6月 26日～29日	工事	—	なし	なし	2箇所 100㎡	7
八千種余田 地区	福岡町八千 種字大谷	福岡町	八千種小学校 体育館建設	平成18年5月 18日～29日	工事	奈良	溝状遺構	土師器・ 須恵器	3箇所 150㎡	8

遺跡名	所在地	原因者	要因	調査期間	取扱	時代	遺構	遺物	調査面積	地図番号
加治谷垣ノ 内遺跡	福岡町東田 原字垣ノ内	亀坪区	範囲確認	平成19年1月 15日	現状 保存	弥生 中世	なし	弥生土器 土師器・ 須恵器	3箇所 12㎡	9
下々通遺跡	福岡町高岡 字大浦	個人	個人住宅建設	平成19年3月 7日	現状 保存	中世	なし	土師器・ 須恵器	1箇所 4㎡	10
南田原糸里 遺跡 (第7次)	福岡町南田 原字吉田	個人	個人住宅建設	平成19年3月 8日	現状 保存	中世	なし	土師器・ 須恵器	1箇所 5㎡	11
南田原長目 遺跡 (第3次)	福岡町南田 原	福岡町	川すそ川付け 替え工事	平成19年3月 26日	工事	—	なし	なし	4箇所 16㎡	12
南田原長目 遺跡 (第4次)	福岡町南田 原	個人	露天駐車場	平成19年3月 26日	工事	—	なし	なし	1箇所 4㎡	13

遺跡名	開催日	参加者
八千種余田大谷遺跡	平成18年6月8日	80名

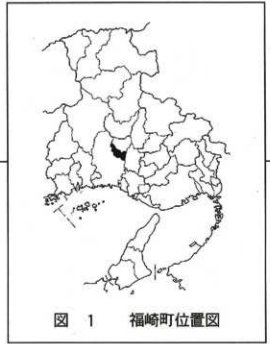


図 1 福崎町位置図

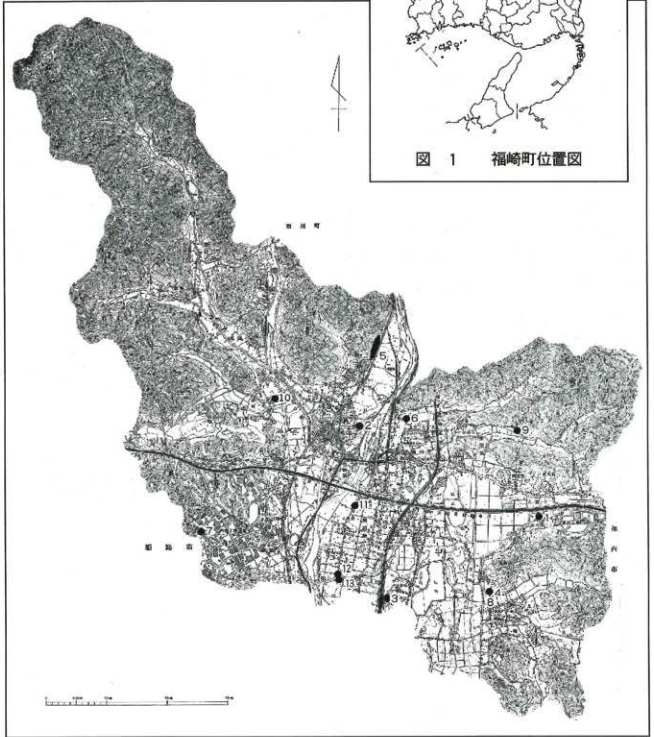


図 2 調査場所位置図

平成17年度

1 南大貫開発予定地

調査地区 神崎郡福崎町大貫字前田

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)

調査期間 平成17年11月16日 (水)



図 3 調査場所位置図

○調査に至る経過

平成17年度において、阪神住建から開発事業を進める手続きがとられ、調整事項のうち埋蔵文化財の有無を確認する必要があり、事業の円滑な推進を行うためにも、試掘調査の必要性が生じた。

その結果、事業に先立ち試掘調査を行うことで同意を得た。

○調査方法

造成予定地内に調査区を6箇所設け、基本的に、重機を用いて掘削し、精査等は人力で行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。記録作成終了後すぐに埋め戻しを行った。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、扇状地として位置付けられる場所であり、周辺は水田として利用されている。南側には、住吉山と呼ばれる山があり、そこからの扇状地がこの場所である。現在は中国縦貫道が東西に走り扇状地を北側と南側に分断するような形となっている。ここは過去、工場用地でも有り、工場撤去後は、更地となっていた。

周辺の遺跡としては、カスベロ遺跡 (散布地)、飛原口遺跡 (散布地)、下遺跡 (散布地) が知られている。カスベロ遺跡及び飛原口遺跡に関しては、平成3年度に福崎東部工業団地の造成に伴う確認調査を実施した。

その結果、少量の遺物は見られたものの遺構等は確認するに至らず工事着工となった。カスベロ遺跡も同様の取り扱いを行った。

下遺跡に関しては、中世の遺物散布地と知られているのみで詳細は分からない。

当地区から西方には、デイサービスセンターの建設に伴う調査によって確認さ

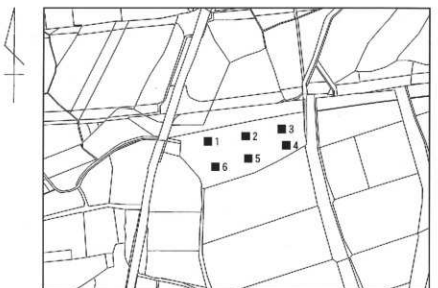


図 4 調査区配置図

れた、古墳時代から中世にかけてのタイノ前遺跡が知られる。

調査区の概要

調査区を6箇所設定した。

調査区1

開発予定地の北西に設定した調査区である。

現地表面から約120cm程度盛土があり、その下には、旧耕作土と考えられる土層が確認できた。そこからは、陶器片が1点出土したが、近現代の陶器と考えられる。その下層には扇状地に関する土層堆積と考えられるのがみられた。

調査区2

北側中央に設定した調査区である。

約120cm下まで掘削したが、盛土が続きコンクリート片も多量に見られたために、この段階で掘削を終わった。

調査区3

北東に設置した調査区である。

約100cm下まで盛土があり、その下層には旧地形の堆積が確認できた。砂層及び砂礫層の堆積が確認でき、扇状地等の関係の堆積と考えられた。

遺物等は見られなかった。

調査区4

南東に設定した調査区である。

約170cm下まで盛土であった。しかし、南から北にかけては盛土の傾斜が見られ、北に約70cm高くなっていた。旧工場等の基礎があった場所で構造物の影響と考えられる。

調査区5

南側中央に設定した調査区である。

約30cm盛土が施され、その下層は旧地形の堆積が見られた。約80cmのところでは粘土と砂礫土の堆積から水性堆積の状況が見られ、扇状地内の土層堆積の一部と考えられた。

遺物は見られなかった。

調査区6

南西に設置した調査区である。

約40cm下まで他の盛土と同様の堆積で、それから約120cmは比較的安定した土層堆積が見られたが、真砂土状のものであり、盛土の一部と考えられる。そのすぐ左には暗褐色土の堆積があり、中には直径30cmから50cmの川原石等が見られた。

これらは、旧の石垣に使われていたと考えられるものであり、周辺のは場整備等の工事の際に、廃棄されたものと考えられる。同様に真砂土状のものは、旧地形の掘削の際の土と考えられる。

遺構

確認できなかった。

遺物

調査区1から、近現代と考えられる陶器片が1点のみ出土した。

〇まとめ

周辺の遺跡の状況や、地形の状況から遺跡の可能性も考えられたが、遺跡とは認識しがたい状況であった。過去の構造物による掘削等の影響も考えられたが、下層から旧地形も見られ、旧地形上に盛土が多く施されていることが分かった。

遺物は調査区1のみから出土したが、遺跡として認識できるものではなく、遺跡外とすることが可能である。

よって、今後の開発には支障がないものとすることができた。

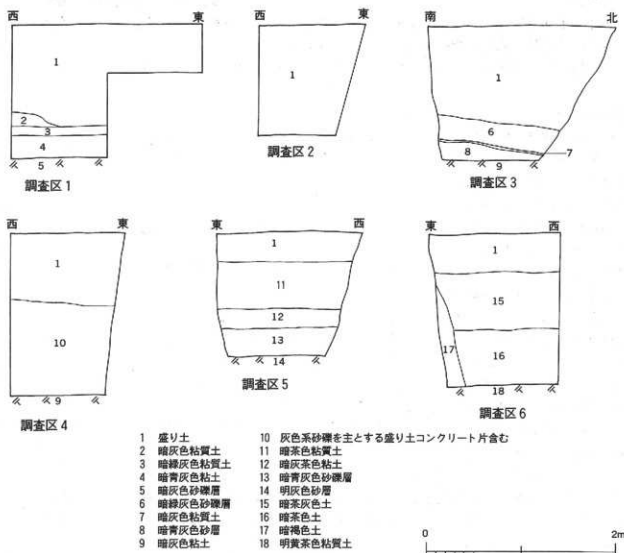


図 5 南大貫地区土層図

2 馬田開発予定地

調査地区 神崎郡福崎町馬田字竹ノ元15番1ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)
調査期間 平成18年1月18日 (水)

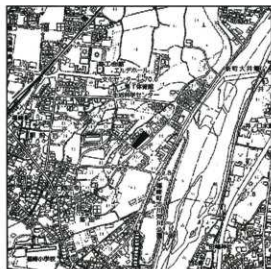


図 6 調査場所位置図

○調査に至る経過

平成17年度に開発に伴う庁内協議があり、開発前に遺跡の有無を確認する必要が指摘された。調査依頼を受け、調整後1月18日に試掘調査を実施することとなった。

○調査方法

開発予定地内は、現況は水田であり耕作土及び埋土を重機を用いて掘削し、精査等は人力で行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

予定地内に5箇所の調査区を設定し、安全上、記録作成終了後すぐに埋め戻しを行った。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、低位の氾濫原とされるところである。現在は周辺の宅地化が進んでおり様子は激変しているが、当該地区は水田として利用されている。周辺での工事等によって遺跡が確認されたことはなく、こども遺跡外の可能性は高い。南側には、墓地が作られている場所があり、通常微高地上に墓域が存在する。他の場所では、微高地の上に遺跡が確認された例があることから、微高地の存在も注意したい。

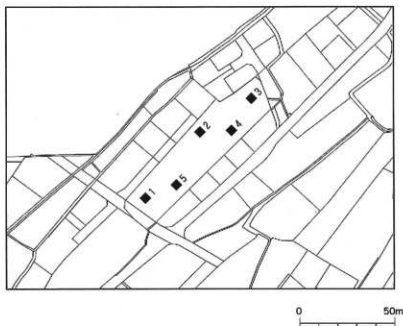


図 7 調査区配置図

周辺には、近世の寺院等の存在はあるものの中世以前の遺跡の存在は知られていない。やや離れた所になるが、北西には同一氾濫原上の微高地部分に古墳時代後期の横穴式石室を有する大塚古墳が知られている。

調査区の概要

氾濫原ということから、河川の氾濫時の堆積が想定でき、調査区の状況に応じて調査箇所を増減も考慮した。

結果的に北端(調査区3)とそれ以外(調査区1, 2, 4, 5)では、状況が著しく異なっ

たが、基本的には河川の氾濫堆積とすることが出来るものであった。

耕作土直下には、水持ちを良くするための床土があり、その下層が氾濫原の堆積であった。

調査区 1

開発予定地の南西端に設定した調査区である。

土層は、耕作土がありその下層に、床土が見られた。すぐ下に砂層堆積が見られ、120cm下に礫交じりの堆積が見られた。床土の直下は水田の影響と考えられるマンガンの沈殿による土色変化が見られたが、基本的には砂層堆積と同様のものである。

ここからは、遺物・遺構の出土は無かった。

調査区 2

開発予定地内の西側中央部に設定した調査区である。

調査区1と同様の堆積状況が見られた。

調査区 3

開発予定地内の北端部に設定した調査区である。

耕作土と床土の関係は調査区 1、2と同様であるが、その下層は拳大から人頭大の石が混じる砂層堆積であった。他の調査区とは異質な堆積であるが、基本的に氾濫原の堆積といえるものである。

遺構・遺物ともに無かった。

調査区 4

開発予定地内の東側中央部に設定した調査区である。

調査区 2 の東側の調査区になるが、基本的に調査区2と同様である。しかし、砂礫混じりの堆積は20cm程度浅いところで確認できた。

遺構・遺物ともに無かった。

調査区 5

開発予定地内の南東端部に設定した調査区である。

調査区1の東側になる。調査区1と同様の堆積であるが、調査区4と同様に約20cmほど浅いところから砂礫混じりの堆積が確認できた。

遺構・遺物ともに無かった。

遺構

皆無であった。

遺物

皆無であった。

○まとめ

氾濫原と考えられる場所から、堆積はそれに対応する状況であり、限られた調査区内でも堆積状況に差異があることや、東のほうがやや浅い状況が見られることなどが分かった。ただ、

遺跡の有無を判断するとすれば、周辺の工事の際にも遺物の出土は報告されておらず、また、今回の調査においても遺構遺物は共に皆無であり、結果からも範囲外とすることが可能である。

調査区3の砂礫の堆積状況はここから北西方向にある町立文化ホールである「エルデホール」建設の際にも同様の堆積状況が確認できていた。

今回の開発地内においては埋蔵文化財に関しては問題が無くその点からは支障なく工事が出来るものである。

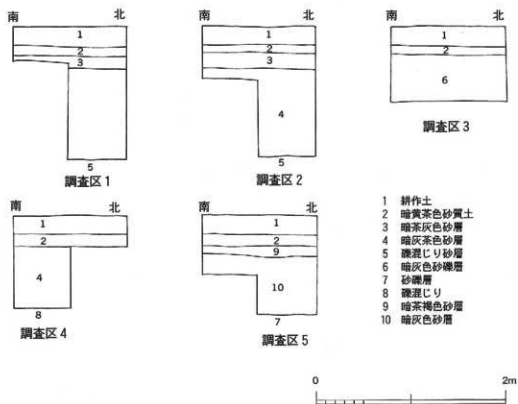


図 8 馬田地区土層図

3 南田原中島開発予定地

調査地区 神崎郡福崎町南田原字南東野1122番地
ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)

調査期間 平成17年12月19日 (月)

平成18年1月25日 (水)

26日 (木) 27日 (金)

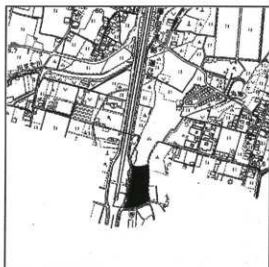


図9 調査場所位置図

○調査に至る経過

平成17年度に開発に伴う庁内協議が開催され、開発前に遺跡の有無を確認する必要が指摘された。

調査依頼を受けるとともに、調整後12月19日

に試掘調査を実施することとなった。後日、追加調査を実施する。

○調査方法

開発予定地内は、既に盛土が施され旧地形に達するまでは約2mの掘削が必要になると考えられ、基本的に、埋土に関しては重機を用いて掘削し、精査等は人力で行う予定であった。しかし、盛土が深く掘削後には崩壊の危険性もあったために極力人的作業は行わず、遺物等の検出に力を入れることにした。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

予定地内に5箇所の調査区を設定し、安全上、記録作成終了後すぐに埋め戻しを行った。

後日、追加調査においては適宜設定を行った。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、段丘面に位置している。現況は、盛土が施され造成地になっているが、旧の土地利用は水田であった。西側には播但連絡道が隣接し料金所が見える。そのすぐ西には、ほ場整備の際に調査された八幡遺跡(姫路市)の記念碑が建設されている。また、東側は段丘面でも高位のものになり一段高くなっている。段丘地形に位置づけら

れるが、西側と東側に高位部分があり丁度挟まれる形で谷地形になっている。この地形を利用して、すぐ南には釜ヶ尾池(姫路市)が造られている。

周辺の歴史的環境は、播但連絡道建設の際に調査された弥生時代から奈良時代にかけての集落遺跡である八幡遺跡(姫路市)が南西方向に存在し、また、西には古墳時代の榎塚遺跡が知



図10 調査区配置図

られている。福崎町内においては姫ヶ池のところから弥生時代の遺物が出土した南田原中野田遺跡が知られている。

調査区の概要

調査予定箇所は、面積からすると約20箇所程度の調査区を考えたが、現地での状況によって調査箇所を適宜変更することとし、結果的に5ヶ所の調査区を持って判断した。

基本的な層序

調査対象地区は既に盛土がかなり搬入されており、地下の様子が判然としない状況であった。基本的には、170cm～290cmの瓦礫などを含む盛土が施されていた。その下層には、旧耕作土と考えられる堆積と旧地形である堆積が確認された。調査区の最下層からは堪えず水が湧き出し少しすれば水没するような状況であった。ただし、地下水脈というものではなく旧耕作土面を通じて水が流れ込んでいると考えられ、周辺からの水の流れ込みといえるものである。

調査区1

開発予定地の北東端西に設定した調査区である。

土層は、盛土が約170cmあり、その下層には、旧耕作土と考えられる堆積が約30cm見られた。その下層には、旧地形の一つと考えられる暗茶褐色土の堆積が見られ、シルト層の地山へと続く。遺構・遺物ともに無かった。

調査区2

開発予定地内の東南中央部に設定した調査区である。

盛土が約220cm施され、その下に旧耕作土関係の土があり、約310cmでシルト層の地山面となる。遺構・遺物ともに無かった。

旧耕作土直上面で水の流れ込みが顕著となった。

調査区3

開発予定地内の南西端部に設定した調査区である。

盛土が約220cm施され、その下に旧耕作土関係の土があり、約310cmでシルト層の地山面となる。遺構・遺物ともに無かった。

ほぼ調査区2と同様であった。

調査区4

開発予定地内の中央部に設定した調査区である。

盛土が約260cm施され、その下に旧耕作土関係の土があることは掘削土から推測できるが、水の流れ込みが激しく遺構面の確認は困難であるが、他の調査区と同様の状況から遺構と遺物に関しては無しと判断できる。

調査区5

開発予定地内の北西端部に設定した調査区である。

盛土が約290cm施され、調査区4と同様の状況であった。

遺構

皆無であった。

遺物

瓦礫類は出土したが、遺跡に関係する遺物は皆無であった。

○まとめ

過去、遺跡としては知られていない場所であったが、近接する遺跡の状況から遺物等が出土する可能性もあった。

しかし、当該地は既に盛土が施され遺構及び遺物の確認は困難と考えられた。実際には、盛土の状況も瓦礫が多く掘削も困難ではあったが、旧耕作土の検出と地山面までの掘削を実施することが出来、概ね地下の状況を判断する材料を得た。

旧耕作土の下層には、シルト層が広がり地山面と考えられ、旧耕作土及び下層からは遺物の出土は皆無であった。遺構については確認可能な調査区と困難な調査区があったが、可能な調査区1、2などから判断すると、遺構の広がりが見られるような地形は考えられず、総合的に判断すると遺跡外とすることができた。

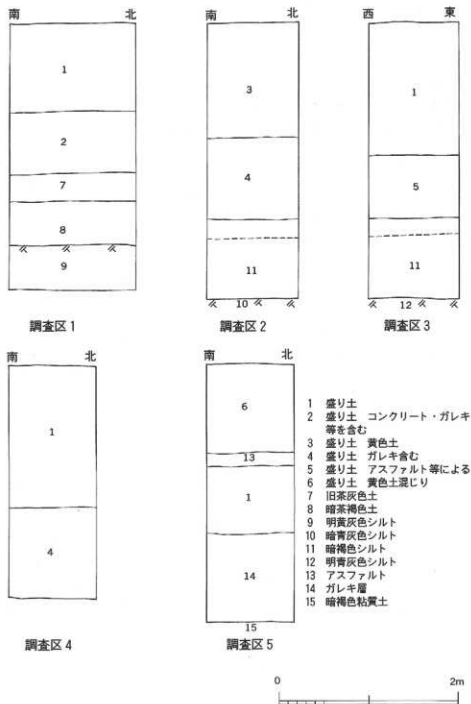


図 1 1 南田原中島地区土層図

- 4 八千種小学校体育館建設予定地
 調査地区 神崎郡福崎町八千種字大谷
 調査主体 福崎町教育委員会
 調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）
 調査期間 平成18年3月24日（金）

○調査に至る経過

平成17年度に開発に伴う庁内協議が開催され、開発前に遺跡の有無を確認する必要が指摘された。平成18年3月24日に試掘調査を実施することとなった。

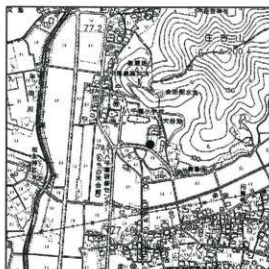


図12 調査場所位置図

○調査方法

開発予定地内は水田が放棄田化し一部畑地もみられた。耕作土は重機により掘削し、精査は人力により行った。予定地内に6箇所の調査区を設定し、適宜写真や図面により記録を作成した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、扇状地に位置している。現況は、水田であったが放棄田となっている所と畑となっている所がある。当該地の東には住吉山に続く丘陵地がある。既に小学校や幼稚園の校舎等の建築の際に造成されているが北には、旧の地形図等から谷地形があったと考えられる。これは、大谷池の存在からもそれがうかがえる。

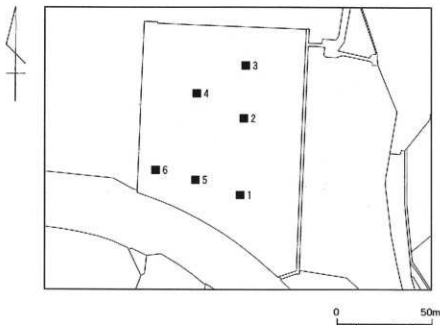


図13 調査区配置図

周辺の歴史的環境としては、隣接地に、大谷古墳が存在するといわれているが、現況では判然としない。この西側には縄文時代、古墳時代、中世と続く春日遺跡（はるかいせき）が存在し、そこで確認された谷地形からも遺物の出土が見られた。そこから考えると上流に位置する大谷池周辺にも遺跡の広がりが考えられた。

調査区の概要

調査予定箇所は、6ヶ所の調査区を設定した。

水田という性格と丘陵地の性格から、耕作土直下は削平を受けている部分が多いと判断された。ほぼ山土の黄色系の堆積土によって構成されている。

調査区 1

開発予定地の南端に設定した調査区である。

土層は、耕作土が約20cmあり、その下層には、床土に当たる層と造成の際の埋土と考えられる層があり、地山面に続く。

遺構・遺物ともに無かった。

調査区 2

開発予定地内の東中央部に設定した調査区である。

調査区 1 と同様の堆積であるが、やや浅くなる。地形の傾斜を示すと考えられる。

遺構・遺物ともに無かった。

調査区 3

開発予定地内の北東端部に設定した調査区である。

上記調査区と同様であるが、地山面は深くなる。谷地形に向かって地形的傾斜を示している。

遺構・遺物ともに無かった。

調査区 4

開発予定地内の北西に設定した調査区である。

耕作土直下に、黒色土層の堆積が確認され、範囲を広げると溝状遺構となった。しかし、遺物を伴わず時代的には判然としない。今後の調査によって判断したい。

調査区 5

調査区 4 の南の調査区である。

調査区 4 のような遺構は存在しない。堆積は、調査区 1 と同様である。

調査区 6

丘陵の下部で、他の調査区とは堆積がやや異なる。茶褐色系統の土層の下に地山面が存在する。

遺構・遺物は無かった。

遺構

調査区 4 から溝状遺構が確認された。

遺物

遺跡に関する遺物は無かった。

〇まとめ

大谷古墳の存在や春日遺跡の存在から、遺跡の広がりも想定できた。しかし、隣接地の道路工事において、遺跡は確認されず、また、小学校のプール建設の際にも遺跡の存在は確認できなかった。

しかし、調査区 4 において溝状遺構の検出は遺跡の広がりを考えさせられるもので、確認調査の実施を持って遺構の年代とその性格を判断していきたい。

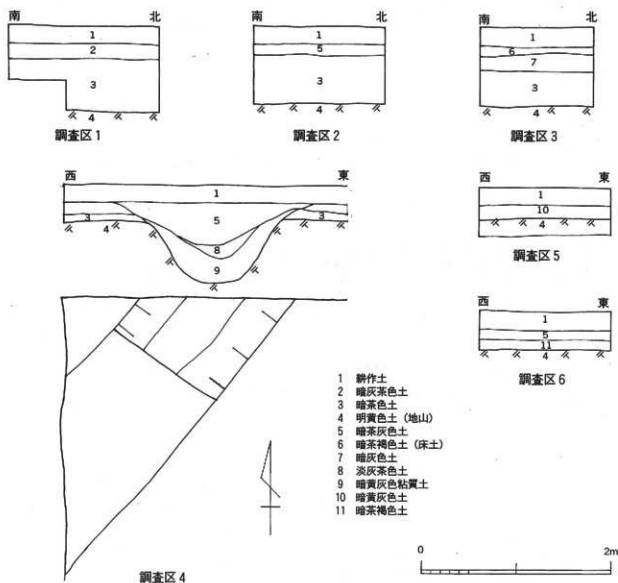


図14 八千種小学校体育館建設予定地土層図

5 山崎地区ほ場整備予定地

調査地区 神崎郡福崎町山崎字岩ハナほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）
調査期間 平成17年4月22日（金）
 ~26日（火）
 平成17年5月31日（火）
 平成17年6月 2日（木）

○調査に至る経過

平成16年度において、ほ場整備事業を進める手続きがとられ、実施されることがほぼ決まった。平成16年度には、説明会の中で、ほ場整備の手続きのほかには遺跡保護の観点からまた、事業の円滑な推進のためにも、試掘調査の必要性を説明した。

その結果、事業に先立ち試掘調査を行うことで同意を得た。

JRに隣接することから、JR協議を2回実施し、調査の方法を確認した。調査においては、線路区域から5m以上はなれることを条件に、隣接地工事の申請書の提出は不要の扱いとなった。安全面への配慮から、5mの目印に杭を打ち込み安全帯を確保した。

4月にはほぼ試掘調査を終了し、1箇所遺構が確認できた地区に関しては、記録等の関係で後日の調査となった。

その結果を下に、兵庫県教育委員会と取扱における協議を行った。

○調査方法

基本的に、耕作土及び埋土に関しては重機を用いて掘削し、精査等は人力で行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

遺構が確認できた場所に関

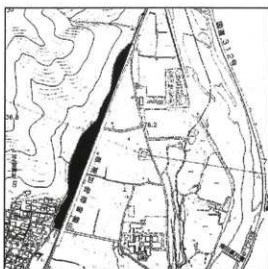


図15 調査場所位置図

関する協議を行った。



図16 調査区配置図

しては、周辺状況を把握できるように5箇所の調査区を残し、他の全ては、記録作成終了後すぐに埋め戻しを行った。

○調査概要

地形区分上は、氾濫原として位置付けられる場所であり、現況は水田として利用されている。このすぐ西には、山がせまっている。

周辺の歴史的環境として、隣接する山は、二ノ宮神社の裏山（北山・神前山）などと称される山であり、神崎郡の郡名起源の山としても知られている。その山から北の市川町甘地にかけて山並が続いている。

市川町と福崎町の境界付近は千東という名称で知られており、千東には、大入道の話などがあり、この山から出た足を市川の流れて洗うということから「洗足：せんぞく」という地名説話も知られている。柳田國男は、著書の中でセンゾクという地名は、「古代葬法の痕跡とつながりがあるのではないかと考えている。」と記しており、遺跡の存在を示唆する場所でもある。

伝説以外には、周辺では古墳時代後期の古墳が幾つか知られている。通称七面さんとよばれる付近には、「狐塚古墳」が知られ、他には、福崎町指定史跡になっている12.3mの横穴式石室を有する後期古墳の「大塚古墳」が存在する。古墳時代の遺物としては、山崎立石には家形石棺の蓋石が見られる。

それ以降の歴史的なものは、天正5年(1577)に妙法寺が建立されたことや明暦2年(1656)鋳造の梵鐘(町指定文化財)などがある。山崎村は、江戸時代には現集落に近い形になったと考えられるが、周辺の古墳の状況等から少なくとも古墳時代後期以降には定住していたと考えられる。しかし、奈良時代から中世においては不明瞭な点が多い。

調査区の概要

発掘調査で得られた情報を調査地区ごとに土層状況と遺物の出土状況や遺構の状況を概説し、最後にまとめとしたい。

調査区は、南北に長い開発予定地内の田に最低1ヶ所設ける形で試掘のための調査区を設けた。(図16)

南からNo1～No31まで設け、それぞれを調査した。(No21は欠番としNo31までの30箇所とした。)

全体的な基本土層としては、3種類に分けられる。

- 1類は、現耕作土の下に旧耕作土を持ち、その下に市川の氾濫と考えられる堆積が見られる。
- 2類は、現耕作土の下に旧耕作土を持たずに市川の氾濫堆積が見られる。
- 3類は、現耕作土の下に旧耕作土を持ち、その下層は黄色系の地山となっている。

調査区1

開発予定地の南に設定した調査区である。

周辺の田より一段高くなっていたが、地形的な関係ではなく、後世の人為的な造成によって一段高い状況になっていることが分かった。

現耕作土直下には、「暗黒灰色砂礫土」があり、その中には、燻し瓦や陶磁器片等が見られた。その下層に、旧耕作土と考えられる堆積とその下には、市川の氾濫堆積が2回分確認できた。

遺物は、近世以降のものばかりで遺跡として認識できるものではない。

調査区 2

基本堆積の1類と同じである。現耕作土の下に旧耕作土が見られ、さらに下層には市川の氾濫堆積が確認できる。

耕作土中から、中世の須恵器片と考えられる遺物が出土した。

山崎集落における中世の様相を知る手がかりになると考えられる。

調査区 3

調査区2と同様の堆積となる、遺物も旧耕作土中から出土している。この遺物は、西にある集落からの流れ込みの可能性が高い。

調査区 4

調査区3と同様の考え方ができる。遺物も同じく旧耕作土中から出土した。

調査区 5

基本的な堆積は2類と同様である。旧耕作土が確認できずに、市川の氾濫原となる。遺物も床土から出土した。

調査区 6

調査区5と同様、遺物は床土下層の堆積から出土した。

調査区 7

2類と同様の堆積で、遺物は認められなかった。

調査区 8

2類と同様の堆積のようであるが、市川の氾濫堆積の下層から中世の遺物の出土があった。市川の氾濫の年代がある程度おさえられる結果が得られた。

調査区 9

2類と同様の堆積である。集落に隣接するが、遺物の出土は見られなかった。

調査区 10

調査区8と同様の堆積が認められた。遺物は出土していない。

調査区 11

調査区1と同様に現耕作土の下層には運搬土と考えられる土層堆積が認められた。遺物に関しても、近現代の所産と考えられるものであった。

調査区 12

現耕作土の直下に礫層が見られ、その中に、遺物が見られた。遺物は2次の移動と考えられる。この堆積土の下層には旧耕作土がみられ、1類の基本堆積となる。

調査区13

基本堆積の2類と同様で旧耕作土を持たない。また、遺物の出土も見られなかった。

調査区14

基本堆積の1類と同様である。遺物は旧耕作土中から磁器が出土した。

調査区15

基本堆積1類と同様である。調査区12のような2次移動をしているような遺物の出土が見られた。この調査区は、次の調査区16と同じ田に設けた。その中で、15と16ではマンガンの有無によって堆積に差があり、過去、合筆された可能性がある。

調査区16

調査区12と同様の堆積である。遺物も同様の出土状況を呈する。

調査区17

明確な遺構としては、調査区17に見られた。川原石が積まれた状況が見られた。(石組み遺構) 西側の壁面には溝状遺構の痕跡が確認できた。

遺物も石組み遺構の間や、石の下などから須恵器や土師器が出土した。

土層堆積は基本堆積3類に該当するものであり、西側の山から伸びる地山地形が見られる。遺跡として認識できる部分である。

調査区18

調査区17に続く場所であるが、基本堆積1類の堆積である。

調査区19

基本堆積2類となる。遺物は見られない。

調査区20

基本堆積1類になる。旧耕作土等から遺物の出土が見られた。遺物としては近世以降のものとする事ができる。

調査区21

調査場所の制約により欠番とする。

調査区22

基本堆積1類に当たる。遺物は無し。

調査区23

調査区18と同様の堆積となる。遺物は無し。

調査区24

基本堆積1類に当たる。遺物は旧耕作土から出土した。遺物の出土する北端の調査区となる。

調査区 25

基本堆積 2 類になる。調査区 24 よりも高い位置にあるが、耕作土直下から砂礫層になる。遺物は見られない。

市川の氾濫堆積ではなく、山側からの流れ込みの堆積と考えられる。

調査区 26

調査区 25 の北側だが堆積が明らかに違う。基本堆積も 1 類となり、旧耕作土の存在が認められる。遺物は無し。

調査区 27

調査区 26 と同様

調査区 28

基本堆積 1 類であり、遺物は無し。

調査区 29

調査区 28 と同様、遺物は無し。

調査区 30

調査区 29 と同様、遺物は無し。

調査区 31

21 を欠番とする替りに、30 箇所目を 31 として設定する。

調査区 17 の北側に設置し、基本堆積 1 類と同様、遺物の出土があった。

遺構 (図 19)

明確なものとしては、調査区 17 から出土した、石組み遺構が上げられる。西側の壁面には溝状遺構の痕跡も見られた。調査区の南側は地山面が耕作土直下から約 20 cm の所で認められ、北に向かって落ち込んでいる様子が見られる。その落ち込みに川原石が混じっている。溝状遺構と石組み遺構は何等かの関係が考えられ、石組み遺構の状況を見るに当たっては、一見して崩落しているような状況が見られる。遺物が石の中に含まれている状況で出土していることから考えられる。しかし、基礎となるべき石の並びなどが明確に確認できていない点は課題を残す。

他の調査区において、これ以外には顕著なものは見られない。

遺物 (図 20, 21)

調査区 2、8 からは須恵器が調査区 5、6、15 からは土師器が調査区 4 からは須恵器と土師器が出土しているがいずれも細片で図化には至らなかった。

図化できたものに関しては、調査区 1 からは、近世以降の燻瓦である瓦片と磁器が出土している。いずれも、2 次的移動が考えられるものであるために、遺跡として認識するものではないが、試掘調査によって得られたものとして図化する。図 20-1 は平瓦である。残存長 15.1 cm をはかり、全面に燻しが施されている。図 21-1 2 は残存高 3.3 cm、復元径

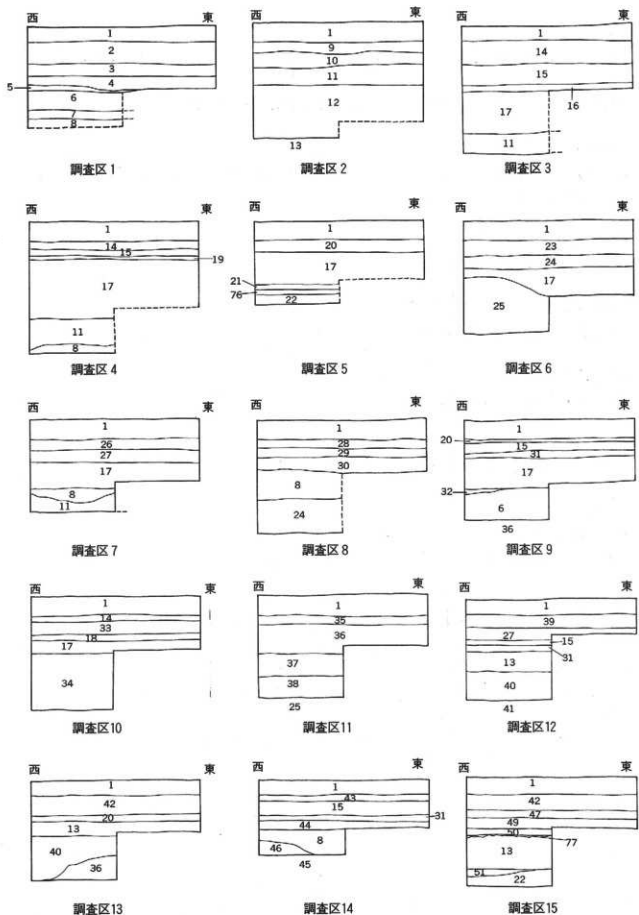
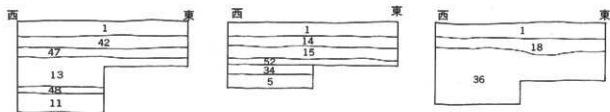


図 17 山崎地区調査区土層図

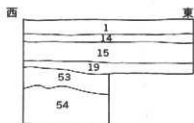




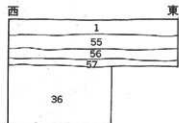
調査区16

調査区18

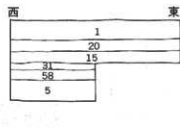
調査区19



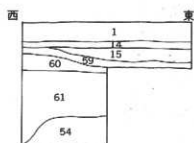
調査区20



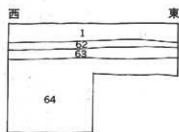
調査区22



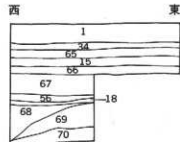
調査区23



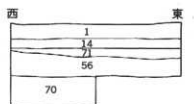
調査区24



調査区25



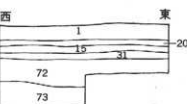
調査区26



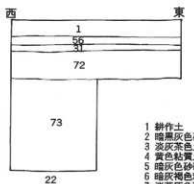
調査区27



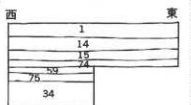
調査区28



調査区29



調査区30



調査区31

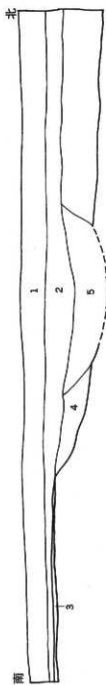
- 1 耕作土
- 2 暗黒灰色砂礫土
- 3 淡灰茶色土(旧耕作土)
- 4 黄色粘質土(床土)
- 5 暗灰色砂礫層
- 6 暗灰褐色粘質土
- 7 淡茶灰色粘質土
- 8 暗灰色砂層
- 9 淡緑灰色土(床土)
- 10 暗灰色砂層
- 11 暗灰色粘質土
- 12 淡茶灰色砂質土
- 13 灰色砂層

- 14 暗黄灰色土(床土)
- 15 暗灰色土(旧耕作土)
- 16 暗黄灰色砂質土(旧床土)
- 17 暗灰色砂質土
- 18 暗黄灰色土
- 19 暗黄灰色土(旧床土)
- 20 暗茶灰色粘質土
- 21 暗黄灰色砂質土
- 22 茶灰色砂礫層
- 23 暗黄茶色腐植じり土(床土)
- 24 暗灰褐色土
- 25 暗黄灰色粘土

- 26 淡灰色土(旧耕作土?)
- 27 淡茶灰色土(床土)
- 28 暗緑黄色土(床土)
- 29 暗灰茶色土(床土)
- 30 暗緑灰色土
- 31 暗黄茶色土(旧床土)
- 32 暗緑灰色砂層
- 33 暗灰茶色土(旧耕作土)
- 34 暗茶褐色土
- 35 暗茶灰色土(床土)
- 36 灰色砂礫層
- 37 茶灰色粘質土
- 38 茶褐色粘土
- 39 暗灰褐色層
- 40 灰色粗砂層
- 41 灰茶色砂礫層
- 42 淡茶灰色土
- 43 緑灰色土(床土)
- 44 灰褐色土(マンガン倉)
- 45 暗茶褐色礫層
- 46 暗黄灰色砂礫層
- 47 黄灰色土(床土)
- 48 茶褐色砂層
- 49 灰色粘質土(旧耕作土)
- 50 黄褐色土
- 51 黄灰色粘土
- 52 暗黄褐色土(旧床土)
- 53 褐色砂礫層
- 54 淡灰色砂礫層
- 55 明黄茶色土(床土)
- 56 暗灰色土
- 57 褐色土(マンガン)
- 58 暗褐色土
- 59 黄褐色土(旧床土)
- 60 淡茶褐色土
- 61 淡灰色砂層
- 62 暗黄灰色土(床土)
- 63 黄褐色砂質土(マンガン)
- 64 淡茶色砂礫層
- 65 淡黄灰色土(床土)
- 66 淡黄灰色土(旧床土)
- 67 灰色土
- 68 灰色粘土
- 69 茶灰色粘質土
- 70 茶灰色砂質土
- 71 暗黄灰色砂質土(床土)
- 72 暗灰茶色砂質土
- 73 暗灰色砂層
- 74 暗灰茶色土(旧耕作土)
- 75 暗褐色土(マンガン)
- 76 暗灰色粘土
- 77 鉄分(マンガン)

図18 山崎地区調査区土層図





- 1 暗灰棕色土
- 2 暗灰色腐混じり土
- 3 暗黄色土
- 4 暗黄棕色土
- 5 暗灰褐色土

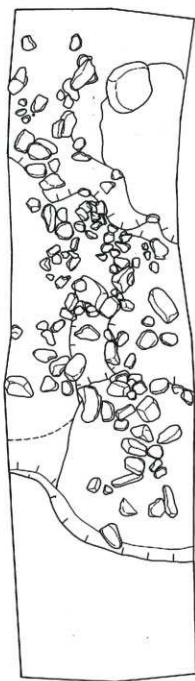


図19 調査区17平面図・土層図

10.2 cm を計る磁器の碗である。外面に施文を施し内面口縁部に直線文を施す。図21-13は磁器の碗であり、残存高3.2 cm 復元径9.7 cm を計る。外面には花の文様を施し内面口縁部には2本の直線文を施す。図21-15は磁器の底部に当たり、残存高2.4 cm、底部の復元径5.2 cm を計る。外面には模様を施し、内面の見込み部にも模様を施す。調査区3からは図21-3が出土し、山茶碗と考えられる口縁部分である。ここからは、細片であるが土師器の出土も見られた。調査区6からは土師器の他に、図21-14にある磁器の出土が見られた。器高5.8 cm、復元口径10.4 cm、底径3.9 cm を計る。外面には花の模様が施され、内面の口縁部には雷文状の模様が見られる。内面見込み部にも植物の模様が施されている。貫入有。調査区11も調査区1と同様の状況が見られ、遺物も図21-16、17にある小さな磁器碗がある。16は残存高2.3 cm、復元底径2.8 cm、17は残存高1.7 cm、底径2.6 cm を計る白磁の小碗である。他には図20-2にある、被熱痕のある石が出土した。長辺で12.3 cm を計る。半分は残るが反対面は欠損している。調査区16からは図21-5の須恵器の杯の底部が出土している。残存高1.1 cm 復元底径5.4 cm で底部には糸切り痕が見られる。調査区17からは、図21-1、2、6、10、11、18が出土し、1は須恵器の杯で口縁部のみであるが、残存高1.8 cm、復元口径13.6 cm を計る。ロクロナデが施される。2は須恵器の杯で口縁部のみで、残存高2.0 cm 復元口径16.2 cm を計る。6は須恵器の杯の底部である。外面未調整、内面はナデを施す。10は須恵器の甕の体部で外面に格子タタキ、内面に同心円文のタタキを施す。11は須恵器の甕で外面は格子タタキ、内面は同心円文タタキが施される。18は土師器の甕で外面は磨耗が激しく調整は不明である。調査区24からは図21-7の須恵器の壺の口縁部が出土した。細片のため断面のみであるが、外面にはタタキ痕が見られる。調査区31は図21-4、8、9が出土し、4は須恵器の杯で復元底径5.4 cm を計る。底部には糸切り痕が見られる。8は、東播系須恵器の鉢の口縁部と考えられるものである。9は須恵器の甕で外面は細かいタタキが見られる。内面は指頭圧痕とナデが施されている。

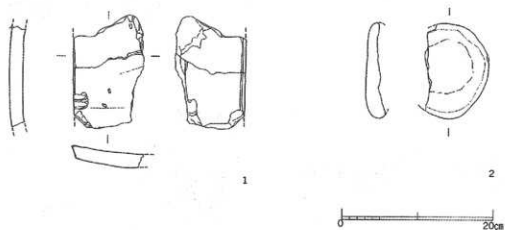


図20 出土遺物

○まとめ

山崎地区周辺においては、古墳や石棺などによって遺跡の存在を知る所が散見されていたが、それら以外のもので遺跡として認識できる所はなかった。散布地として、認識できる所もほとんどなく、遺跡の空白地の様相を呈していた。要因としては、市川の氾濫原にあたり、遺跡が存在しない可能性が高いと考えられたからである。

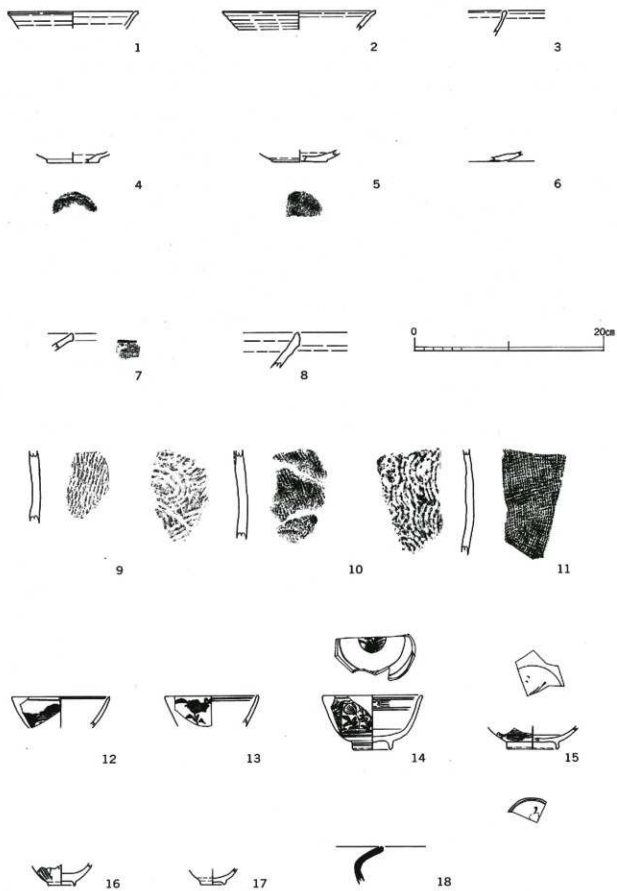


图21 出土遗物

しかし、山崎には神崎郡の郡名起源の山が存在し、千束においては古代装法の痕跡地の可能性が指摘され、民話の伝承地でもある。そのことも考慮すれば、何らかの遺跡が存在する可能性も十分考えられた。

結果的には、現山崎集落の前身である集落の可能性を示す土器類や人工的に作られたと考えられる、集石遺構の存在や溝状遺構の存在などによって、このあたりに人の活動していた痕跡が確かめられた。

調査範囲が限定されていることから、全体的な範囲と性格をうかがうことは困難ではあるが、西側の山ぎわに沿って遺跡が広がるものと想定できる。

時代も中世のものが出土し、山崎集落が中世から存在していたことを示唆するものと解される。開発範囲内では顕著な遺構は、1箇所を除いて確認できなかった。基本的には、旧耕作土を伴うことがわかり、中世以降には現在のような水田地帯になっていったことが考えられる。

集石遺構の場所に関しては、埋め戻し後に慎重工事を行うことによって進めることが可能と考えられた。

山崎地区ほ場整備予定地調査区一覧

調査区番号	基本土層分類	遺物の有無	遺構の有無	時代	備考	調査区番号	基本土層分類	遺物の有無	遺構の有無	時代	備考
1	1	△	×	近代	瓦類・磁器	16	1	△	×		須恵器 2次移動
2	1	○	×	中世	須恵器	17	3	○	○	中世	石組み遺構
3	1	○	×	中世	須恵器・土師器	18	1	×	×		
4	1	○	×	中世	須恵器・土師器	19	2	×	×		
5	2	△	×		土師器 2次移動	20	1	△	×	近世	
6	2	△	×		土師器 2次移動	22	1	×	×		
7	2	×	×			23	1	×	×		
8	2	○	×	中世	須恵器	24	1	○	×		須恵器
9	2	×	×			25	2	×	×		
10	2	×	×			26	1	×	×		
11	1	△	×	近代	瓦・陶磁器類	27	1	×	×		
12	1	△	×		須恵器 2次移動	28	1	×	×		
13	2	×	×			29	1	×	×		
14	1	△	×	近世	磁器	30	1	×	×		
15	1	△	×		土師器 2次移動	31	1	○	×	中世	須恵器

※基本土層分類はP16の分類による。

遺物の有無の○は出土があったところ。△は近世以降又は2次移動があったところ。×は無かったところ。

遺構の有無の○は遺構が確認されたところ。×は無かったところ。

出土遺物観察表

図版 番号	調査区 番号	種別	器種	法量 (cm)				色 調	形態・技法・特徴	胎土	焼成
				口径	腹径	底径	器高				
20-1	1	平瓦						暗灰N3/0		砂粒含む	良好
20-2	1	石						にぶい赤褐 5YR5/3	被熱による赤色変化 あり		
21-12	1	磁器	碗	(10.2)			残3.3	明緑灰5G7/1		精良	良好
21-13	1	磁器	碗	(9.7)			残 3.25	明緑灰5G7/1		精良	良好
21-15	1	磁器	碗	(5.2)			残 2.45	灰白5Y7/1		精良	良好
21-3	3	須恵器	碗				残 2.65	灰5Y6/1	ヨコナデ	ごく細かい 砂少量 含む	良好
21-14	6	磁器	碗	(10.4)		3.9	5.8	青灰5B6/1		精良	良好
21-16	11	磁器	杯		(2.8)		残2.3	緑灰5G6/1		精良	良好
21-17	11	白磁	杯			2.6	残1.7	灰7.5Y6/1		精良	良好
21-5	16	須恵器	碗			(5.4)	残 1.15	灰N6/0	ロクロナデ、ヨコナデ	少量の砂 粒含む	良好
21-1	17	須恵器	碗	(13.6)			残1.8	灰N5/0	ロクロナデ	ごく少量 の砂粒含 む	良好
21-2	17	須恵器	碗	(16.2)			残2.0	灰N5/0	ロクロナデ	ごく少量 の砂粒含 む	良好
21-6	17	須恵器	杯				残 0.95	灰白 7.5Y7/1	ナデ、ヨコナデ	砂粒含む	良好
21-10	17	須恵器	壺				残9.6	暗赤灰 10R4/1	格子タタキ 同心円文タタキ	少量の砂 粒含む	不良
21-11	17	須恵器	壺				残 11.3	灰N5/0	格子タタキ 同心円文タタキ	ごく少量 の砂粒含 む	良好
21-18	17	土師器	壺				残4.0	にぶい黄橙 10YR6/3		砂粒及び 3mm~5 mmの砂礫 含む	やや良
21-7	24	須恵器	壺				残1.8	灰N6/0	ロクロナデ	精良	良好
21-4	31	磁器	碗			(5.4)	残 1.25	灰5Y5/1	ナデ、ロクロナデ、 糸切り	少量の砂 粒含む	良好
21-9	31	須恵器	壺				残7.7	灰N5/0	外面ハケメ 内面ヘラケズリ	精良	良好
21-8	31	須恵器	鉢				残3.7	青灰5PB6/1	ロクロナデ	砂礫少量 含む	良好

6 西広畑遺跡（第2次）

調査地区 神崎郡福岡町西田原字西広畑
調査主体 福岡町教育委員会
調査担当 出田 直（福岡町教育委員会）
調査期間 平成17年12月15日（木）

○調査に至る経過

平成17年度に個人住宅建設のために、農業委員会へ転用許可申請が提出され、その際に、西広畑遺跡の範囲に該当するために、確認調査が必要であるとの見解を示した。

その後、文化財保護法第93条の届出とともに、確認調査の手続きを進めた。書類受理後、日程調整を行い上記期間において確認調査を実施した。



図22 調査場所位置図

○調査方法

基本的に、耕作土及び埋土に関しては重機を用いて掘削し、精査等は人力で行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

予定地内に2箇所調査区を設定し、安全上、記録作成終了後すぐに埋め戻しを行った。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、段丘面に位置し、西には市川に流れ込む谷川が隣接する形で南流する。南東方向に、辻川山（宮山）として知られる標高約120mの山がある。現況は水田として利用されている。

この辻川山周辺には遺跡が顕著に見られ、古くは宮山遺跡、西広岡遺跡など弥生時代の遺跡が広がることが知られていた。また、平成6年度のは場整備に伴う調査では、弥生時代中期集落である、上大明寺遺跡や今回の遺跡の範囲である西広畑遺跡の存在が確認された。

西広畑遺跡は、古墳時代後期にも集落が形成されていたことがわかり、東に位置する東新田古墳や東広畑古墳と関係があると考えられる。

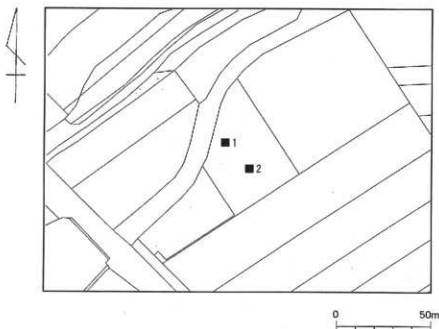


図23 調査区配置図

調査区の概要

調査区を2箇所設定した。

調査区 1

開発予定地の西に設定した調査区である。

土層は、耕作土が約30cmあり、その下層には、過去のは場整備の際に造られた盛土が約40cm存在している。その下層に旧耕作土に伴う堆積土が見られ、次に遺物包含層と認識できる土層となる。約40cm下層には、地山面となる暗白灰色土の面が広がる。

調査区 2

開発予定地内の東側に設定した調査区である。

土層の状況は、西側と厚さを除けば基本的な層序は同じである。

地山を構成する面は、耕作土面から約80cmのところに見られ、調査区1では約120cmのところに見られることから、東から西にかけて傾斜していることが分かる。現在の地形も東から西に傾斜していることがわかることから、旧地形も同様であったことが分かる。

ここからは、pitが2個確認できた。暗褐色土の埋土があったが遺物はともなわなかった。その上面の包含層には土師器等と考えられる土器の出土が見られた。

遺構

明確なものとしては、調査区2からpitが検出された以外は見られなかった。

暗白灰色土の地山面に遺構が存在することが、今回の確認調査でも確認できたことは意義深い。

遺物

耕作土から、土鍬が1点出土し、盛土からも2次的移動の出土遺物ではあるが、周辺遺跡の年代と符合すると思われる遺物の出土が見られた。

主に、土師器類と須恵器に分けられる。

〇まとめ

西畑畑遺跡が広がると考えられる場所の確認調査を行ったわけであるが、遺物と遺構が確認でき、成果は少なからず大きなものであった。遺跡の範囲はさらに北側に延びると考えられ、今回の場所は、遺跡の範囲内として差し支えない。

遺構面は、現耕作土から約60cm下にあり、東から西にかけて傾斜している旧地形が見られ、この旧地形上に遺構が広がることが確認された。

今回の調査に関しては、遺構面が約60cm以上下であること、工事に際しては耕作土を除去しても、遺構面に影響を及ぼす掘削の予定はなく、現況の場所では慎重工事として進めることが出来ると判断した。

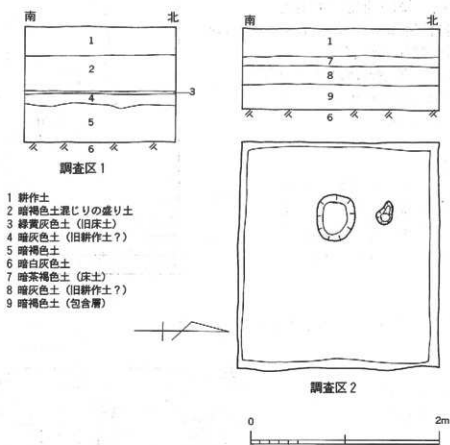


図24 西広畑遺跡土層図・平面図

平成18年度

7 西治地区内工業団地建設予定地

調査地区 神崎郡福崎町西治字拜尾860番31ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）

調査期間 平成18年6月26日（月）～
29日（木）



図25 調査場所位置図

○調査に至る経過

工業団地の拡張工事により開発が行われることになり、近隣で遺跡が確認されたことがあることから事前に試掘調査を実施し遺跡の有無を調べる必要があると判断し協力を得て調査を行った。

○調査方法

重機により掘削し、掘削場所の確認を行った。その際、適宜写真により記録をとった。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形は、山になり緩傾斜地を含めた部分が工事範囲となる。

工業団地第6次造成の際に、調査を実施し、檜谷遺跡の存在を知るに至った。また、周辺には古墳時代の円光寺山古墳、円光寺山西古墳などが知られている。

調査区の概要

調査区は、工事の掘削部分を中心に、確認できる範囲とした。

岩盤が露呈する部分や山土のみが見られる部分などがあったが、遺物や遺構は皆無であった。

遺構

確認されなかった。

遺物

皆無であった。

○まとめ

遺構や遺物に関しては皆無であり、この結果、遺跡の範囲外とすることが出来た。



写真1 調査状況



写真2 調査区の状態

8 八千種余田大谷遺跡

調査地区 神崎郡福崎町八千種字大谷
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)
調査期間 平成18年5月15日(月)～
29日(月)



図26 調査場所位置図

○調査に至る経過

平成17年度試掘調査の際、遺構らしきものが確認できたが、年代や性格等不明瞭な部分が多かった。また、周辺では耕作物が見られ制約を伴っていた。その後の調整により、耕作物の撤去と開発の調整を行い遺跡の有無を確認した。

○調査方法

耕作土は重機により掘削し、精査は人力により行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、扇状地に位置している。現況は、水田であったが放棄田となっている所と畑となっている所がある。東に住吉山に続く丘陵地があり既に造成されているが北には谷地形が見られる。大谷池の存在からもそれがうかがえる。

隣接地に、大谷古墳が存在するといわれているが、現況では判然としない。しかし、西側には縄文時代、古墳時代、中世と続く春日遺跡（はるかいせき）が存在し、谷地形部分から遺物の出土も見られ春日遺跡の東にも遺跡が広がることも考えられた。

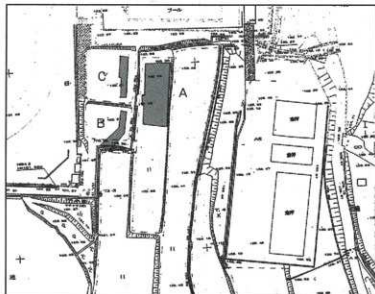


図27 調査区配置図

調査区の概要

昨年度試掘した場所のうち溝状遺構が確認できた地点を広げて遺構と遺物の有無を確認した。調査区は3箇所設け、東側からは溝状遺構が南側からはその続きが検出された。西側からは遺構の検出は無かった。東側を調査区A、南側を調査区B、西側を調査区Cとして以下に記す。

調査区A

ここからは、北東方向から南西方向にのびる溝状遺構が1本検出された。上面で幅約120cm底面で幅約20cm深さが約50cmあった。

最下層では、淡茶色粘土があり、その上層では茶褐色土が埋土として認められた。
 この中からは、須恵器と土師器の出土があり、時期的にも奈良時代（8世紀代）の遺物と考えられる。

調査区B

調査区Aからのびる溝状遺構が検出された。田を作る際に削平を受けている状況であり、溝状遺構の上面部分で約70cm、深さは約40cmであった。遺物はここからは出土しなかった。

調査区C

遺構は検出されなかった。

遺物も皆無であった。

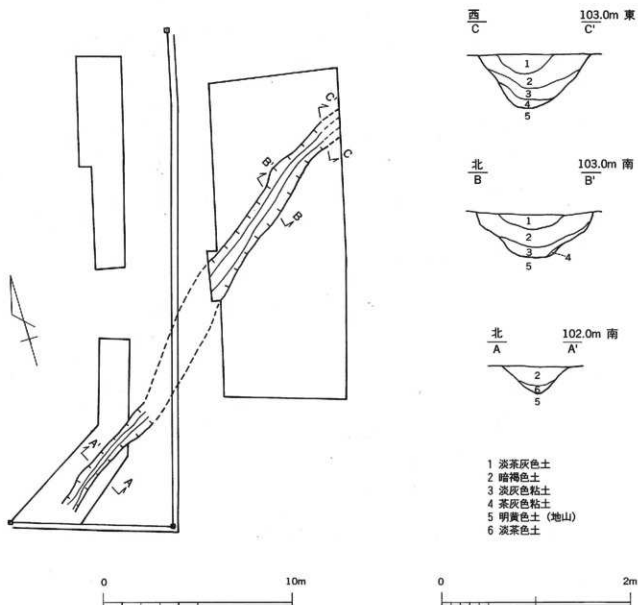


図28 遺構平面図・土層図

遺構 (図28)

調査区A、Bから溝状遺構が検出された。

調査区Aと調査区Bで検出された遺構は同一遺構であり、北東方向から南西方向に伸びる溝状遺構とすることが出来る。

調査区Bでは、削平が著しく溝の残りも悪かった。小さいながらもV字を呈する溝になっている。

遺物 (図29)

調査区Aから須恵器 (1) と土師器 (2) の出土があった。須恵器は1点で蓋杯部分、土師器は壺で細片が10点見られた。

土師器には、使用した際の煤の付着が見られた。

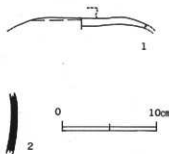


図29 出土遺物

○まとめ

大谷古墳の存在や春日遺跡の存在から、遺跡の広がりも想定できた場所である。しかし、遺物の散布が認められなかったことから遺跡の存在は希薄なものと考えられたが、試掘調査の結果、溝状遺構が検出された。溝状遺構からは少量であるが遺物の出土が見られ、奈良時代の遺構であることが分かった。遺構内外には遺物の出土がほとんど無く、周辺に集落などの人的かかわりの深い遺跡が広がることは薄いのではないかと考えられる。

溝状遺構の北東側には現在、ため池が構築され、その部分は元は谷地形が認められる場所である。そこには当然水の関わりが考えられ、この溝も灌漑用の溝として利用されていたのではないかと想定される。

出土遺物観察表

図版番号	地区名	種別	器種	法量 (cm)				色調	形態・技法・特徴	胎土	焼成
				口径	腹径	底径	器高				
29-1	A一溝	須恵器	蓋				残 1.25	灰5Y6/1	ロクロナデ ヘラケズリ	砂粒多く含む	良好
29-2	A一溝	土師器	壺				残6.3	灰黄褐 10YR5/2~ 橙5YR6/6	ナデ	2mmの 砂粒多く含む	良好

9 加治谷垣ノ内遺跡

調査地区 神崎郡福崎町東田原字垣ノ内
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）
調査期間 平成19年1月15日（月）



図30 調査場所位置図

○調査に至る経過

垣ノ内遺跡が圃場整備の際に発見され、調査を行ったが、その周辺からも遺物の散布が見られるという情報を得、遺跡の範囲がどの程度広がるかを確認し、周辺の開発等の状況に対応できるように確認調査を実施することとなった。

○調査方法

字垣ノ内の田1筆を調査対象地とし、3箇所の調査区を設けた。耕作土は重機により掘削し、精査は人力により行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、谷底平野の一角を占める場所になるが、詳細に観察すると、山から伸びる舌状の台地上の地形部分になり、その西側は北から伸びる谷地形の存在が伺える。

調査区のすぐ西側には、垣ノ内遺跡が広がり、古墳時代から中世にかけての遺物が出土し、堅穴住居も確認された集落遺跡である。さらに西側には弥生時代の越前遺跡（こしまえいせき）、縄文時代から弥生時代にかけての大垣内遺跡（おおがいちいせき）などの存在が知られている。

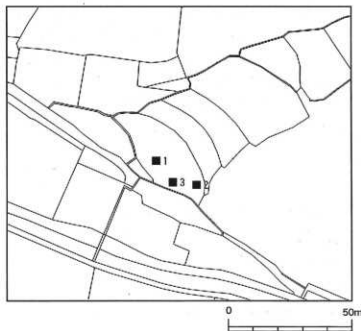


図31 調査区配置図

調査区の概要

北側に谷地形があり、すぐ南はがけ上になり調査区のある田との落差が大きく、調査区はかなりの盛土が有る可能性が考えられた。また、谷を埋め立てて田を成形しているものとも推測された。そのために、調査区は東西に1箇所とその中間に1箇所の合計3ヶ所を設定した。

調査区1

田の西に設定した調査区である。

土層は、耕作土が約20～30cmあり、その下層には、床土に当たる層がある。耕作土から約75cmで地山と考えられる基盤の面に到達する。顕著な遺構は見られなかったが、その間に

堆積土が何層か確認され、その中からは遺物の出土が見られた。

主に、須恵器が多かったが、最下層からは弥生土器と考えられる遺物の出土があった。

調査区 2

田の東に設定した調査区である。

調査区 1 と同様の堆積であるが、やや浅くなる。地山面も約 50 cm で到達する。地形の傾斜を示すものと考えられる。

遺構状のものが見られたが、遺構とするには弱いものであった。

遺物は須恵器が出土し、皿や蓋と考えられるものであった。

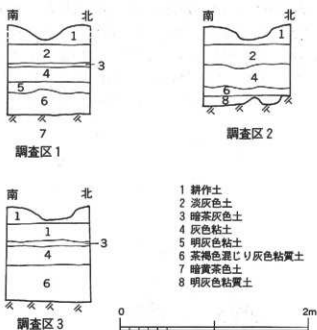


図 3 2 調査区土層図

調査区 3

調査区 1 と 2 の中間に設定した調査区である。

調査区 1 とほぼ同様の堆積となる。

約 80 cm で地山面に到達する。遺物は須恵器が出土したが、数は少量であった。

遺構

明確なものは確認されなかったが、調査区 2 からは遺構状のものが確認された。

遺物 (図 33)

須恵器を中心に出土し、調査区 1 からは弥生土器と考えられるものが 1 点出土した。(6) 壺の口縁部と考えられるものであるが、内外面の磨耗が激しく調整等は不明である。(1) は表採品であるが、返りを持つ杯で古墳時代にさかのぼる可能性があるものといえる。(2) は杯の底部である。(3~5) は蓋になり、(7, 8) は甕になる。内面は同心円文のタタキがあり、外面もタタキによって成形されている。(9, 10) は木製品であるが、端部に焼けた跡が見られるものである。

〇まとめ

当該地区 (亀坪) の歴史を考える上では、日光寺が中心となることは周知のことでもあり、それ以前の歴史を知ることはあまりなかった。

過去の調査においては、加治谷集落との関わりから越前遺跡や垣ノ内遺跡の調査を行った際に、弥生時代から中世にかけての遺跡を確認した。

弥生時代は、中期の遺跡であり、それ以降の時代としては古墳時代後期から中世にかけての遺物が出土し、亀坪周辺でも古くからの人の生活が知られることとなった。

今回においては、垣ノ内遺跡の隣接地でもあり、関係が注目され、1 点ではあるが弥生土器と考えられるものの出土は、越前遺跡と同様に、谷部分に広く弥生時代の集落が広がっていた可能性を示すものである。

現段階において、亀坪集落における最古の遺物と考えていいものといえる。

また、古墳時代と考えられる遺物は須恵器の杯であり、周辺に知られる妙徳山古墳など、その時期の遺跡を考える上での貴重な情報を提供してくれたといえる。

中世においては、神積寺との関わりや日光寺との関わりも考えられ、それらとの関わりを直接示す遺物とはいいがたいが、時代背景を考える上でも貴重なものであると考えられる。

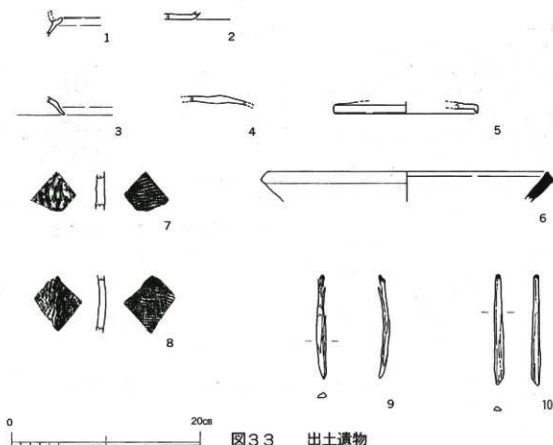


図3.3 出土遺物

出土遺物観察表

図版 番号	調査区	種別	器種	量尺 (cm)				色 調	形態・技法・特徴	胎土	焼成
				口径	腹径	底径	器高				
33-8	1	須恵器	壺				残6.0 灰N6/O	格子タタキあり 同心円文あり	精良	良好	
33-2	1	須恵器	杯 (底部)				残0.8 灰N6/O	ロクロナデ	精良	良好	
33-6	1	弥生 土器	壺 (29.6)				残3.2 灰白10YR8/1	ナデ	2mmの 砂粒多 量含む	良好	
33-7	2	須恵器	壺				残4.1 灰N5/O	格子タタキあり 同心円文あり	精良	良好	
33-3	2	須恵器	蓋				残1.9 灰N6/O	ナデ	精良	良好	
33-4	2	須恵器	蓋				残1.1 灰N6/O	ロクロナデ ヘラケズリ	精良	良好	
33-9	2	木製品					残11.0 灰黄橙10YR6/4	端部に炭化部あり			
33-10	2	木製品					残11.7 灰黄橙10YR6/4	端部に炭化部あり			
33-1	表探	須恵器	杯				残2.0 灰N5/O	ナデ	精良	良好	
33-5	表探	須恵器	蓋 (15.1)				残1.2 灰黄橙10YR6/4 内面 灰N6/O	ナデ	精良	良好	

10 下々通遺跡

調査地区 神崎郡福崎町高岡字大浦
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直 (福崎町教育委員会)
調査期間 平成19年3月7日 (水)

○調査に至る経過

農地転用の申請の際に届出がなされ、周知の遺跡の範囲に含まれると考えられる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

字大浦の1筆を調査対象地とし、1箇所の調査区を設けた。耕作土は重機により掘削し、精査は人力により行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、七種川に關係する段丘面になり、周辺の田より一段高い位置にある。その部分には、旧来からの集落が形成され宅地となっているところが多い。

過去実施された分布調査により、周辺で遺物の散布が確認され、遺跡となっている場所である。下々通遺跡の南にも観音堂遺跡、宮ノ前遺跡などの散布地が知られ、中世の遺物の散布が見られる。

西には、医王寺という天台宗の寺院があるが、その境内地には、方墳の可能性を持つ神谷古墳が知られている。横穴式石室を有する古墳は高岡地区では唯一の存在であるが、同境内地には、家型石棺の蓋があり、また、医王寺の北西にある東光寺池の近くの墓地には、家型石棺の蓋石が存在するなど、古墳時代の遺跡が存在することを強く示唆する。

調査区の概要

調査区は、建設予定地内の南端に1ヶ所設定した。

調査区1

土層は、耕作土が約30cmあり、その下層には、淡茶灰色土の層が20cmある。ここからは遺物などの出土は見られなかった。その下層には、茶褐色土の堆積があり、ここから細片ではあるが、須恵器と土師器の出土があった。細片のために時期は断定できないが、散布地の状況



図34 調査場所位置図



図35 調査区配置図

からして中世の可能性が高い。

遺構

確認されなかった。

遺物

須恵器が1点、土師器が2点出土した。いずれも細片で時期は特定できない。

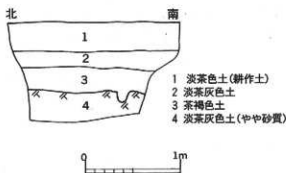


図36 調査区土層図

○まとめ

散布地であったが、過去の調査はほとんど行われていない中で、今回の調査により、包含層の存在が確認できたことは大きい。しかし、細片であり時期を特定することはできなかったものの、散布地の状況から中世の可能性を持ちつつも、西側に存在する古墳等から古墳時代の遺物の可能性もある。今後の、調査事例を持って考えていきたい。



写真3 調査前の状況



写真4 調査風景



写真5 調査区1

11 南田原条里遺跡（第7次）

調査地区 神崎郡福崎町南田原字吉田2799番5ほか

調査主体 福崎町教育委員会

調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）

調査期間 平成19年3月7日（水）

○調査に至る経過

農地転用の申請の際に届出がなされ、周知の遺跡の範囲に含まれると考えられる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

字吉田の1筆を調査対象地とし、1箇所の調査区を設けた。耕作土は重機により掘削し、精査は人力により行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、市川の氾濫原となる部分で高位氾濫原と位置づけられる。旧来からの集落が形成され宅地となっているところが多く、微高地が存在している。

過去実施された分布調査により、周辺で遺物の散布が確認され、条里地割の存在から遺跡としても認識されてきた。周辺での調査は多くないが、北東にある安徳寺周辺では、旧石器時代のナイフ形石器や中世の墨書土器が出土した南田原福川遺跡が知られる。

それ以外には、古墳時代の石棺材が八反田公民館敷地内に知られるのみで遺跡の存在は希薄な場所でもあった。

調査区の概要

調査区は、建設予定地内の南端に1ヶ所を設定した。

調査区1

土層は、耕作土が約20cmあり、その下層には、明黄茶色土の床土がありその下層からは旧耕作土と考えられる灰茶色土の層がある。ここからは遺物が少量出土したが2次堆積の



図37 調査場所位置図

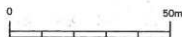
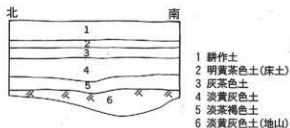


図38 調査区配置図



- 1 耕作土
- 2 明黄茶色土(床土)
- 3 灰茶色土
- 4 淡黄灰色土
- 5 淡茶褐色土
- 6 淡黄灰色土(地山)



図39 調査区土層図

可能性が高い。その下層には、淡茶灰色土の層があり遺物の出土が見られた。遺物包含層とすることが出来る。その下層には、遺物の出土は見られなかった。

遺構

確認されなかった。

遺物 (図40)

1は須恵器の蓋でかえりのあるものである。2は壺と考えられ外面にはタタキが残る。外面には自然釉の付着が見られる。3は口径12.8cmの須恵器の杯である。4、5は須恵器の蓋になり、4は内面に同心円文のタタキ跡が残る。5は蓋の端部が残り口径15.0cmを測る。

〇まとめ

周辺の調査があまり行われていないことから未知の部分もあったが、古墳時代の遺物から奈良時代の遺物を含みその頃の遺跡が広がる可能性が高い。古墳時代に関しては、隣接集落の公民館に石棺材があることなどからも古墳時代の遺跡の存在も考えられたがはっきりしなかった。少量ではあるが遺物の出土があったことにより、古墳時代の遺跡が存在する可能性が高く今後の調査の進展を待ちたい。

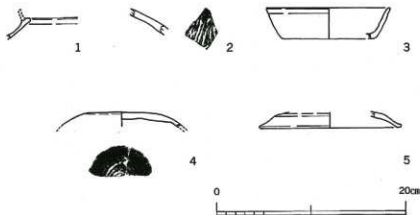


図40 出土遺物

出土遺物観察表

図版 番号	調査区	種別	器種	法量 (cm)				色 調	形態・技法・特徴	胎土	焼成
				口径	腹径	底径	器高				
38-1	1	須恵器	杯				残2.2	灰N5/0	ロクロナデ	精良	良好
38-2	1	須恵器	壺				残4.4	外面褐灰 10YR5/1 内面灰白8/0	タタキあり 自然釉の付着	精良	良好
38-3	1	須恵器	杯	(12.8)		(9.6)	3.3	外面灰7.5Y6/1 内面灰白7/0	ロクロナデ	精良	良好
38-4	1	須恵器	蓋				残1.6	青灰5BG5/1	ロクロナデ 回転ヘラケズリ 同心円文状のタタキ痕 あり	精良	良好
38-5	1	須恵器	蓋	(15.0)			残1.7	外面 灰N4/0 内面灰褐 5YR5/2	ロクロナデ ヘラケズリ	精良	良好

12 南田原長目遺跡（第3次）

調査地区 神崎郡福崎町南田原398番1ほか
調査主体 福崎町教育委員会
調査担当 出田 直（福崎町教育委員会）
調査期間 平成19年3月26日（月）

○調査に至る経過

川すそ川付け替え工事の協議が行われ、周知の遺跡の範囲に含まれる場所であり、確認調査の必要性があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

南田原398番1ほかの工事予定地内の田を調査対象地とし、4箇所の調査区を設けた。耕作土は重機により掘削し、精査は人力により行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。



図4-1 調査場所位置図

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、川すそ川の氾濫原となる部分に位置づけられる。すぐ南は崖面を呈し段丘面を形成する。調査対象地は川すそ川が弓状に湾曲する場所であり、耕作地は張り出す形となっている。この場所の、南側は段丘面を呈しているが、その場所には縄文時代の遺物が採集され、主に弥生時代中期から後期にかけての集落遺跡である、南田原長目遺跡が存在する。

また、社寺も見られ、近世に建てられた藤田神社や薬師寺が存在する。

近世社寺ではあるが、石造物では中世にさかのぼると考えられる板碑や江戸の初めに属する石灯笼や町指定文化財となっている五智如来などの優品が存在する。

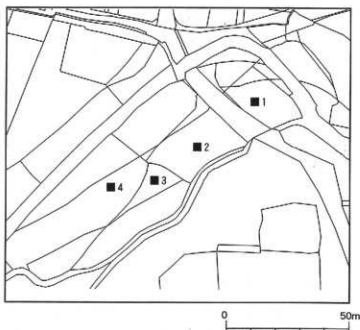


図4-2 調査区配置図

調査区の概要

工事予定地は川すそ川の南に位置し、その中を南北に町道が走っている。町道をはさみ東側に1箇所、西側に3箇所の調査区を設定した。

調査区1

一番東に設定した調査区であり、道路の東側に位置する。

土層は、耕作土が約20cmあり、その下層には、床土がありその下層からは鉄くずや礫などを含む盛土があり、その下層には旧耕作土と考えられる暗灰色土の層がある。さらに、旧耕作土

の暗灰色砂質土と続き、最下層には暗灰色砂層の川すそ川の堆積が確認された。遺物遺構は皆無であった。

調査区2

道路の西側で西側の一番東に設置した調査区である。

高さは、調査区1と同様と考えられたが、耕作土の直下には暗黄灰色の堆積が見られ、その下層は礫混じりの暗灰色土、灰色砂礫層と続くが、直下あたりから顕著な礫層が確認でき、これらは川すそ川の堆積と考えられた。遺物や遺構は皆無であった。

調査区3

調査区2と隣接し、高さも同じくらいであった。耕作土直下のあり方ならびに川すそ川の堆積と考えられる礫層のあり方は同様であるが、堆積状況はまるで違うもののように見えた。

調査区4

一番西側に設定し、しかも低位の調査区である。

耕作土の下には、暗灰色土があり礫混じりであった。その下はすぐに川すそ川の堆積と考えられる暗黄灰色砂層となっている。

遺物や遺構は皆無であった。

遺構

確認されなかった。

遺物

皆無であった。

○まとめ

南田原長目遺跡が南の段丘上にあることから、遺物などが出土する可能性も十分考えられた。しかし、結果的には川すそ川の堆積が確認できたのみで遺物に関しても遺構に関しても皆無であった。

この結果、遺跡の範囲は段丘上を範囲として、この部分は遺跡外とすることが出来ると判断される。

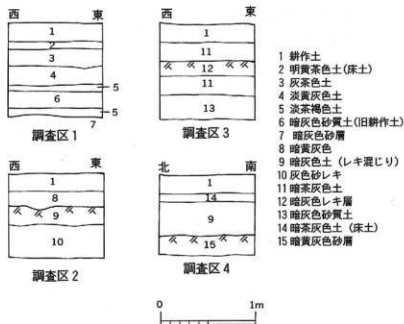


図4.3 調査区土層図

13 南田原長目遺跡 (第4次)

調査地区 神崎郡福岡町南田原579番4

調査主体 福岡町教育委員会

調査担当 出田 直 (福岡町教育委員会)

調査期間 平成19年3月26日 (月)

○調査に至る経過

農地転用申請が提出され、周知の遺跡の範囲に含まれる場所であり、すでに露天駐車場にされているが下層の状況を確認する必要があることから協力を得て調査を行った。

○調査方法

南田原579番4の露天駐車場の田を調査対象地とし、1箇所の調査区を設けた。耕作土は重機により掘削し、精査は人力により行った。その際、適宜写真や図面により記録を作成した。

○調査概要

周辺の地理的歴史的環境

地形区分上は、段丘部分に位置づけられる。すぐ北は崖面を呈し川すそ川の氾濫原に続く。この場所の、すぐ西側は町史編集時に調査を行った南田原長目遺跡の調査区になり、南側には耕作中に遺物の出土があったことで知られる場所でもある。遺跡の範囲としては、縄文時代の遺物が採集され、主に弥生時代中期から後期にかけての集落遺跡である、南田原長目遺跡と考えられている。

また、隣接して社寺も見られ、近世に建てられた藤田神社や薬師寺が存在する。

近世社寺ではあるが、石造物では中世にさかのぼると考えられる板碑や江戸の初めに属する石灯笼や町指定文化財となっている五智如来などの優品が存在する。



図44 調査場所位置図

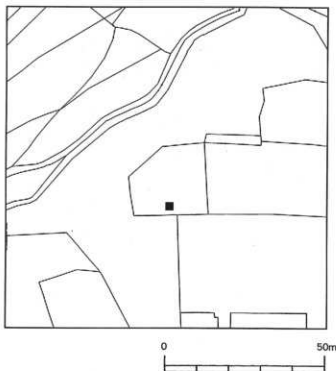


図45 調査区配置図

調査区の概要

既に露天駐車場となっているがその場所に1箇所調査区を設定した。

調査区1

対象地の南側に位置する場所を調査区とし、下層の状況を確認した。

土層は、耕作土が約20cmあり、その下層には、暗茶色土があり、その下層が地山面と考えられる明黄茶色土となる。ここからは、南に隣接する薬師寺に関連する瓦を含む暗茶灰色土の堆

積土を持つpit状のものを確認したのみで、顕著な遺構や遺物は見られなかった。

遺構

確認されなかった。

遺物

皆無であった。

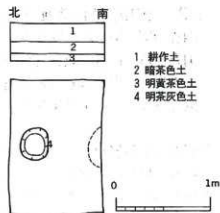


図46 調査区土層図

○まとめ

西側に隣接する藤田神社周辺からは、弥生時代の遺物が顕著に見られたことから、ここも含まれている可能性が高かったが、結果的に出土はなかった。包含層の存在も見られなかったことから、近世以降の寺院建設の際や水田の耕作等の関係から削平されている可能性も大いに考えられる。

しかし、西側には岡本電工の事務所が建てられているが、その際にも遺物の出土は報じられなかった。そこから考えると、遺構の希薄な場所といえるかもしれない。ただし、地形的には遺跡の範囲として考えるに足る部分であり、今後の周辺の開発にも十分注意が必要である。



写真6 調査地の状況



写真7 調査風景



写真8 調査区1

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ
書名	埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	平成17年度・平成18年度発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	福岡町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	6
編著者名	出田 直
編集機関	福岡町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1 TEL0790-22-0560
発行年月日	2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしひろはたいせき 西瓜畑遺跡	ひょうごけん 兵庫県 かんざきぐんかきまちょう 神崎郡福崎町 にしたわらあざにしひろはた 西田原学西瓜畑	28443	410084	34度 57分 39秒	134度 45分 51秒	2005.12.1 5	10	個人住宅 建設
やまざきせんぞんけいせき 山崎千束遺跡	ひょうごけん 兵庫県 かんざきぐんかきまちょう 神崎郡福崎町 やまざきあざむ 山崎字岩ハナ	28443		34度 58分 15秒	134度 45分 31秒	2005.4.22 -4.26 2005.5.31 2005.6.2	120	圃場整備
やちくきよだんおおたにいせき 八千種余田大谷遺跡	ひょうごけん 兵庫県 かんざきぐんかきまちょう 神崎郡福崎町 やちくきよだんおおた 八千種字大谷	28443	410132	34度 56分 09秒	134度 46分 47秒	2006.5.18 -5.29	150	体育館建 設
かじたにかき うちいせき 加治谷垣ノ内遺跡	ひょうごけん 兵庫県 かんざきぐんかきまちょう 神崎郡福崎町 むがしたわらあざかきうち 東田原字垣ノ内	28443	410110	34度 57分 33秒	134度 47分 03秒	2007.1.15	12	範囲確認
げんげどありいせき 下々通遺跡	ひょうごけん 兵庫県 かんざきぐんかきまちょう 神崎郡福崎町 たかかみあざおちうら 高岡字大浦	28443	410065	34度 57分 49秒	134度 44分 27秒	2007.3.7	4	個人住宅 建設
みなみたわらじょうりいせき 南田原条里遺跡 だいじ (第7次)	ひょうごけん 兵庫県 みなみたわらじょうり 神崎郡福崎町 みなみたわらあざ 南田原字吉田	28443	410046	34度 56分 51秒	134度 45分 19秒	2007.3.8	5	個人住宅 建設
みなみたわらあざめいせき 南田原長目遺跡 だいじ (第3次)	ひょうごけん 兵庫県 かんざきぐんかきまちょう 神崎郡福崎町 みなみたわらあざめい 南田原字長目	28443	410007	34度 56分 15秒	134度 45分 08秒	2007.3.26	12	河川工事
みなみたわらあざめいせき 南田原長目遺跡 だいじ (第4次)	ひょうごけん 兵庫県 かんざきぐんかきまちょう 神崎郡福崎町 みなみたわらあざめい 南田原字長目	28443	410007	34度 56分 12秒	134度 45分 07秒	2007.3.26	4	露天駐車 場

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西瓜畑遺跡	集落	弥生・古墳	pit	弥生土器	
山崎千束遺跡	散布地	奈良	石組み遺構	須恵器	
八千種余田大谷遺跡	散布地	奈良	溝状遺構	須恵器・土師器	
加治谷垣ノ内遺跡	散布地	弥生・中世	包含層	弥生土器・須恵器	
下々通遺跡	散布地	中世	なし	土師器・須恵器	
南田原条里遺跡	条里	中世	包含層	土師器・須恵器	
南田原長目遺跡	集落	弥生	なし	なし	

図 版



八千種余田大谷遺跡現地説明会風景



八千種余田大谷遺跡現地説明会風景



調査前の状況



作業風景



調査区 1



調査区 2



調査区 3



調査区 4



調査区 5



調査区 6

2 馬田開発予定地



調査前の状況



作業風景



作業風景



調査区 1



調査区 2



調査区 3



調査区 4



調査区 5

3 南田原中島開発予定地



調査前の状況



作業風景



調査区 1



調査区 2



調査区 4



調査区 3



調査区 5

4 八千種小学校体育館建設予定地



調査前の状況



作業風景



調査区 1



調査区 2



調査区 3



調査区 4



調査区 5



調査区 4 溝

5 山崎地区ほ場整備予定地 (山崎千束遺跡)



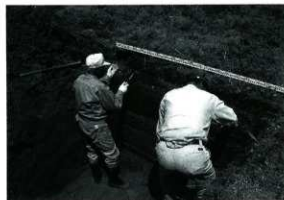
調査前の状況 (南から)



調査前の状況 (北から)



作業風景



作業風景



調査区 1



調査区 2



調査区 3



調査区 4

5 山崎地区ほ場整備予定地（山崎千束遺跡）

図版 6



調査区 5



調査区 6



調査区 7



調査区 8



調査区 9



調査区 10



調査区 11



調査区 12



調査区 13



調査区 14



調査区 15



調査区 16



調査区 17



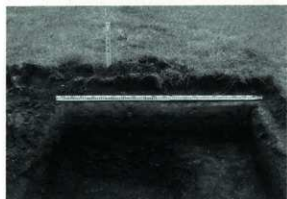
調査区 18



調査区 19



調査区 20



調査区 22



調査区 23



調査区 24



調査区 25



調査区 26



調査区 27



調査区 28



調査区 29



調査区 30



調査区 31



調査区 17 作業風景



調査区 17 検出状況



調査区 17-1



調査区 17-2



調査区 17 遺物出土状況



調査区 17 壁面



調査前の状況



作業風景



作業風景



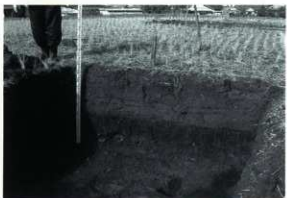
調査区1



調査区1 遺構検出状況



調査区1 遺構掘削状況



調査区2



調査区1 出土遺物



調査前の状況



作業風景



調査区A



調査区B



遺構検出状況



遺構掘削状況



調査区A溝



調査区B溝

9 加治谷垣ノ内遺跡



調査前の状況



作業風景



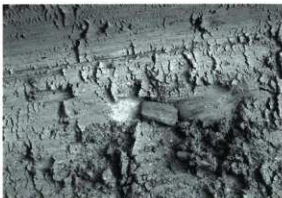
調査区1



調査区2



調査区3



遺物出土状況

11 南田原条里遺跡 (第7次)



調査前の状況



作業風景

11 南田原条里遺跡 (第7次)



作業風景



調査区1

12 南田原長目遺跡 (第3次)



調査前の状況



作業風景



調査区1



調査区2



調査区3



調査区4

山崎地区 (山崎千束遺跡出土遺物)



20-1



20-2



21-1



21-2



21-3



21-4



21-5



21-6



21-7



21-8



21-9



21-10



21-11



21-12



21-13



21-15

山崎地区（山崎千束遺跡出土遺物）



21-16



21-14



21-17



21-18

八千種余田大谷遺跡出土遺物



29-1



29-2

加治谷垣ノ内遺跡出土遺物



33-1



33-2



33-3



33-4



33-6



33-5

加治谷垣ノ内遺跡出土遺物



33-7



33-8



33-9



33-10

南田原条里遺跡出土遺物



38-1



38-2



38-3



38-4



38-5

埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 17・18 年度発掘調査報告

平成 21 年(2009 年) 3 月 31 日

編集発行 福岡町教育委員会

〒 679 - 2280

兵庫県神崎郡福岡町南田原 3116 - 1

TEL 0790 - 22 - 0560

印刷 井上印刷所

兵庫県神崎郡福岡町福田 438 - 1

TEL 0790 - 22 - 0130



